



提案! アイデア企画

本学の工芸科学部デザイン経営工学課程の演習の一つを紹介しました。デザイン経営工学について「何それ?」と思う方も多くいるかもしれません。ここではデザインマネジメント・エンジニアリングの3分野を総合的に学んでいます。取り上げた演習では、学生同士が話し合っ



「ほかにも...」
演習では、他にもユニークなアイデアが提案されている。昨年は「びたネタ」のほかに「はがせる参考書・問題集」が発表された。勉強中に参考書や問題集をコピーするのはなかなか難しい。そこで、特殊なインクが使われた参考書や問題集にフィルムで文字を写し取り、ノートに貼って利用できる仕組み。受験生が机を離れずに作ることができ、

はがせる参考書／熱奪うカーテン

デザイン経営工学課程 デザイン、経営学、工学の3分野を学ぶ。製品や施設などをデザインするのではなく工学的な知識を持つことで、ものづくりの仕組み

「デザイン経営工学演習」は、年々まで蓄得した知識をかし、3年の間に行われる。6人のグループに分かれ、課題に関連した技術を生かせる新製品を考え、企業がアドバースを受けながら事業企画の一連の流れを経験する。昨年の課題は「粘着技術を使った社会を豊かにする事業」。企業から講師を受けたのは、すしのネタとシャリの間に挟んで使う、食べられる粘着剤「びたネタ」だった。

「回転すしで100皿のうち6皿はネタがシャリから落ちる。そのようすは客に取られず、廃棄されてしまうことを知った。」
企画・開発に携わった4年の西紗帆さん(2)、中川叶さん(2)、辻根さん(2)は発案のきっかけを説明する。当初は、パークキーをしている時に、食材が皿から落ちることを防ぐ粘着力のあるパークキーノートを考えていた。しかし、本当に粘着力が必要な粘着剤を探し、結局、びたネタに決まった。

「後は、シートがすしの味に悪影響を及ぼさないか、どれくらいしつかりとネタをシャリがつかうかについて、実験を繰り返した。3人は、数値で測定することが難しく、またと振返った。ちなみに実用化には空っぽいな。」
社会や企業への課題を解決策をグループ討論や社員への聞き取りを通じて考える「プロジェクト・ベストドローイング」(PDB)で、文部科学省が毎年開催している教育活動。演習の総括を務める川北昌教授(57)は、いち早くPDBに注目して取り組み始めた。演習の結果、実用版もサンプル販売、通販販売に発展したケースもあるという。

やビジネスなどをデザインし、広い視野でプロデュースできる人材の育成を目指す。1~3年が使用する演習室には、全員

課題 接着技術で社会を豊かにする事業とは?

回転すしは、ネタがシャリから落ちると廃棄されるそうだし、それはもったいない!

検討

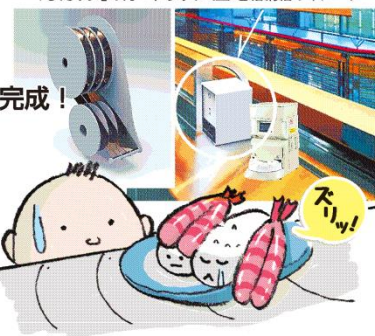


ひらめき

食べられるシートでくっつけば...!



「びたネタ」のカートリッジ(左)と格納箱のイメージ



解決策 「びたネタ」完成!



ネタがすり落ちない!

が共有できるスペースが設けられ、学年を越えた交流が盛んに行われている。1、2年には1人ずつ製図台と個人ロッカーがあり、会話やアドバイスをしながらお

互いの能力を高め合っている。1年から各分野の演習科目があり、グループワークをこなすことで、高度な知識をもつ実務者が多数輩出されている。

「ネタがシャリからすり落ちない」「参考書や教科書の必要な部分をシートで写し取れる」。こんなユニークな商品のアイデアが、京都工芸繊維大学のデザイン経営工学課程の演習で生み出されている。デザインとマネジメント、エンジニアリングの視点によるものづくりへのアプローチ。次はどんなものが出てくるのか。

デザインマネジメント・エンジニアリングの3分野を総合的に学ぶ大変さややりがいも、同時に伝えるというのとても難しかった。企業とつながり連携している授業はそうないと思います。少しでもデザイン経営工学課程の楽しさを魅力が伝わる記事になっていると思います。

取材メモ

今週の記者

- 工芸科学研究科修士課程 2年 中原 康行(25)
- 工芸科学部 3年 津田 冴子(20)
- 1年 岸田 彩花(19)
- 下村 祐輝(19)

うちのプロジェクト

京都工芸繊維大学の魅力を学生目線で発掘・発信することで、京都や日本、世界での知名度向上やブランド価値を高めることを目指し、2013年7月に結成しました。大学公式のフェイス

ブックやツイッター、LINE(無料通信アプリ)で大学の様子や季節感のある周辺情報を発信。高校生に向けた大学紹介紙の制作や他大学の広報団体との交流などもしています。

京都工芸繊維大学 広報チーム K-NOSBY